

新潟県 P T A

No.114

発行 新潟県小中学校PTA連合会
編集 広報委員会
 〒950-0965
 新潟市中央区新光町7番地2
 新潟県商工会館5階
Mail ngknpa@coral.ocn.ne.jp
 ホームページもぜひご覧ください!
 新潟県PTA連合会

目次

- 1面 県PTA研究大会 加茂・田上大会
- 2面 教育問題「多様性への対応」 研修会
- 3面 組織検討委員会報告「PTAは必要か？」
- 4面 関東ブロック研究大会 山梨大会
- 5面 日本PTA三行詩コンクール入賞作品
- 6面 コロナ禍におけるPTA活動紹介
日本PTA表彰
- 7面 コミュニティ・スクールにおけるPTA活動
広報委員会活動報告
広報紙コンクール案内
- 8面 小・中学生総合補償制度加入のおすすめ

初めての共同開催!

第61回新潟県小中学校PTA研究大会 加茂・田上大会

家庭・地域・学校のゆるぎない「絆」 未来を拓く「加茂・田上っ子」の育成を目指して



大会実行委員長 石附 大昌
(加茂市小中学校PTA連絡協議会)

9月18日(日)、田上町交流会館を会場に、第61回新潟県小中学校PTA研究大会 加茂・田上大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、研究大会としては3年ぶりの開催となりました。当日は県内各地より多くのご臨席ご来場をいただき、ありがとうございました。感染拡大防止のため、新潟県小

中学校PTA連合会本部役員、加茂市・田上町単P会員、次期開催地の村上市岩船郡PTA協議会役員のみに参加者を限定しての開催となりました。県内のPTA会員の皆様には、10月16日(日)から11月20日(日)までのおよそ1か月間、大会内容をWEBにて配信いたしました。ご臨席ご来場いただきました皆様、WEBでの視聴をしていただいた県内PTA会員の皆様に御

礼申し上げます。ありがとうございました。

通常であれば、研究大会ではアトラクションと実践発表の場を設けるところですが、感染拡大防止を考慮した結果、アトラクションは設けず、実践発表も加茂市・田上町各校のPTA活動紹介動画を作成し、会場内の一角とWEBでの視聴といたしました。

記念講演では、新潟経営大学教授中島純様をお招きし「今どきの学校と家庭を考える」親と教師のパートナーシップについて」を演題に、PTA活動で大切なこと、コミュニティ・

スクールとPTA活動の役割などをお話しいただきました。少人数でのグループセッションも交えながら、各グループで出された意見も会場全体で共有し、有意義な講演会となりました。

大会主題「家庭・地域・学校のゆるぎない「絆」」にもあるように、加茂・田上大会は、家庭・地域・学校の三者が協力し、子どもたちの強い絆、子どもたちの明るい未来につながる研究大会だったと思います。



大会副実行委員長 豊田 誠
(南蒲原郡小中学校PTA連合会)

第61回新潟県小中学校PTA研究大会 加茂・田上大会が無事開催できたことに、関係各位の皆様、ご参加いただいた皆様に感謝いたします。昨年度より加茂・田上大会の計画にあたり、コロナ禍の中で研究大会を開催してもよいものなのか、開催する場合の感染拡大防止を考慮した大会内容や講演内容はどのようなものにする

ばよいかなど、多くの問題がありました。そのような中、感染拡大防止のため動画配信を含めた大会を無事開催することができました。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。この大会を通じて、大会趣旨の「家庭・地域・学校のゆるぎない「絆」」のように、皆様がコロナ禍でも負けない「家庭・地域・学校のゆるぎない絆」をつくっていただければと思います。

記念講演

今どきの学校と家庭を考える 親と教師のパートナーシップについて



新潟経営大学教授 中島 純様

新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの日常生活は大きく変化しました。PTA活動も様々な制約を受け、縮小や中止を余儀なくされたものも多々あります。PTA活動は地域や参加人数によって様々です。中島教授の講演は、今

後のPTA活動のあり方について考える絶好の機会と、思い、とても楽しみにしていました。

中島教授からは、PTA活動に対する世論の動向、保護者と教員の意識調査結果、新潟県内のコミュニティ・スクール導入状況などにふれながら、保護者と教員の関係づくりについてご講演いただきました。

きました。講演の途中にはグループセッションの時間が設定され、保護者と教員の関係づくりに必要なこと、これからのPTA活動のあり方について、参加者同士で積極的に意見を交わしました。

参加者からは「保護者と教職員相互の顔の見える関係づくりを大切にしてください」「保護者同士、保護者と教職員のコミュニケーションを深めていくことで、PTA活動の活性化を図る」といった意見が出されました。「Face to Face」の顔を合わせての関係づくりの大切さを改めて実感しました。

(加茂市P連事務局長 笠原 崇)



PTA旗の引継



開会式
グループセッション



大会参加者集合写真

☆直接のコミュニケーションで、スマホ依存に勝てます。スマホは子どもの話を聞いてくれません。(聞くことはできる)

講演概要 「多様性への対応 ~多様性を受け入れ、共生社会の実現をめざすインクルーシブ教育システム~」

講師 新潟大学大学院 教育実践学研究所 教授 長澤 正樹 (特別支援教育スーパーバイザー、上級教育カウンセラー、文部科学省教育審議会専門委員)

1 特別な支援を必要とする子どもたちへの対応

- 自己理解・周囲の理解 (特性の理解と受容、本人のつらさを理解する努力を)
○合理的配慮 (本人中心の個別計画作成と実行、ICTの活用)
○教育場の提供 (特別支援学級、通級指導・適応教室、指導が生かされる生活の場)

2 子育て、私の考え

- 自己肯定感を高めるかわり ○自己決定の重要性 ○ほめると叱る ○親子の対話

3 発達障害特性とは?

- 学習障害(LD) (聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する 能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態、LDとは知的な遅れのない学習困難)
○注意欠如多動障害(ADHD) (自分の行動が抑制できない障害。不注意、多動、衝動が見られ、「ぼんやり、注意散漫タイプ」、「キレやすく衝動的なタイプ」、「混合タイプ」など様々なタイプがある)
○自閉症スペクトラム障害(ASD) (社会的コミュニケーション、相互作用の障害、行動の特異性が見られる。場の空気が読めない、思ったことをすぐに口に出す など能力の著しい偏りから、対人関係、情緒の問題を引き起こす)
○ASDの指導の基本
①簡素化(環境の整備、設定、課題の始まりと終わりがわかるように、結果に対して素早く対応、成功には賞賛と褒美を 設定も課題も対応もシンプルであること)
②見て理解できるように(スケジュール表の活用、絵に描いて説明する、文章にして教える、話を図に整理して考えさせる など、視覚教材は他の子どもにとってもわかりやすく、有効である)
○特性が強く、本人が生きてくさを感じ、周囲に理解してほしい

4 事例に学ぶ対応

事例 1 ハルカ(ADHD)は、何か気に入らないことがあったり、うまくいかないと母に当たり散らします。理不尽な言いがかりをつけます。(この服が気に入らない、弟がじゃまをする など)一つ一つ説明をしますが、その都度違う不満を口にし、納得しません。ハルカの母は、困っています。

- 事例1の対応 ○応用行動分析(ABA) ○問題の分析 ○対応
○問題行動のまとめ
・子どもの様子と今までのかわりを見直す → 問題が起こる前の様子、起きた後の対応
・「～してはいけませんよ」より、「○○しましょう」 → 望ましい行動、ギリギリ許せる行動を教える
・できるためのおげんで、やり続ける対応 → 事前の約束、ほめことばやごほうび
・子どもは自己表現が未熟です
→ 悪い流れを止めて、よりましな行為をほめる ひとりで悩まず話し合い、対応を分担する

事例 2 アオイ(ASD女子)は、まじめで何事にも規則通りに対応します。校則もちゃんと守り、先生から指導を受けることはありません。苦手なことは女子のグループでのおしゃべり。「空気読めないね」「今その話じゃない」などいわれ、不登校になりそう。

- ASDのウリは?
・正義感が強い、まじめ → 主張の正当性を評価し、対応の仕方を教える
・論理的思考、理数系に強さを発揮 → 特性にあった進路、活動を勧める
・記憶力が抜群 → 学習や趣味に生かす。みんなの前で評価する
・パソコンなど、機器関係に強さを発揮
→ 問題行動や困難さへの対応を考える前に、発達障害の強み(できること)を評価すること

- ASDに求められること
・自己理解 → 他者理解の困難さ、自己管理の弱さ、自分のウリ
・自己管理 → 課題の優先順位など、スケジュール管理。支援ツール
・自己解決 → 解決の「形」を知り、形に従い問題を乗り越える
・自己主張 → カウンセリングなどで、人とのつきあい方を学ぶ

- 気づきと自覚による問題解決(かっこ内はアオイへの対応)
・対話(信頼関係の構築(当たり障りのない話題など))
・気づきを促す(学校生活のこと、対人関係、会話内容、相手の反応など)
・生徒の自覚(目標)(話題を確認する。話していいか聞くなど)
・実行の具体策(複数人での会話練習。通級の先生)
・気づきを促す(相手に合わせられた、自分の話に興味を持ってくれた)
・生徒の自覚(グループの輪には入れた!)

☆現状を冷静に俯瞰し、できることを自己選択 一歩前に進むともっと前に行ける可能性を感じ取る

5 二次障害と女性の発達障害(項目のみ)

- ASDの二次障害 ○ため込み症への対応 ○ADS特性と女性特性

6 大事なことは「自己理解」そして支援(項目のみ)

- 自己理解の方法:基本 ○手続き 1 ○根拠を分析する
○対応を考える ○手続き(続き) ○カウンセリングによる自己理解
○自己理解から次の自分へ ○自己理解と進路決定 ○就労につながる自己理解 ○事例3メイ(ASD女子)

7 インクルーシブ教育システム(項目のみ)

- 父性と母性
○本来の「あなた」を大切に
○絆(きずな)

思春期女子の学校生活 発達障害情報・支援センター



特別支援教育・発達障害の情報 講演会資料



発達障害、LGBT、HSP/C、LD、ADHD、ASD、インクルーシブ教育... 講演... 黒崎市民会

県P連 教育問題委員会 研修会 「多様性への対応」

講師 新潟大学大学院 教育実践学研究所 教授 長澤 正樹

館において、発達障害やADHD等、子どもたちの多様な個性を大人が理解して向きあうために、より深く考え、子どもたちへのサポートに役立てていただけるよう、講演会を開催いたしました。講師には、新潟大学大学院 教育実践学研究所 教授 長澤 正樹氏をお招きし、「多様性への対応」多様性を受け入れ、共生社会の実現をめざすインクルーシブ教育システム」をテーマにご講演いただきました。発達

障害やADHDは一人ひとりがある個性であり特性です。発達障害は「発達特性」と受け取れるのかもしれませんが、とても奥の深いテーマです。今回はその講演を動画に収め公開いたしますので是非ご視聴ください。子どもたちの様々な多様性(個性)と向き合うためのヒントを見つけることができます。特性を抱えた子どもたちはいずれ社会生活を迎えますが、円滑な調和を実現するためには周囲の理解と「自己理解」が必要とのこと。今回の講演を機に、広い心、広い視野で互いを尊重しあえたらと思います。今後も様々な教育問題について講演会や学びの場をご提供させていただきたく思います。子育ての参考にしていただければ幸いです。

(教育問題委員長 小澤 裕)

※長澤先生の講演を新潟県小中学校PTA連合会ホームページにて動画配信予定です。講演概要を参考に視聴してください。

新潟県PTA連合会 検索



進行 亀井委員 閉会あいさつ 小澤委員長 講師紹介 宮坂副委員長 閉会あいさつ 佐久間副会長

参加者の声

30代 会社経営者

やはり親が子どもの話を【聴く】ってことの大切さと、子どものとった行為に対して褒める、伝えることの大切さを改めて感じました。日々の自分の子どもたちへの関わりをとても考えさせられた貴重なお話でした。私たち大人も親も完璧になんて生きられないし、誰かの力を借りて生きている。そのことを子どもたちにも伝える、見せていくことは大事だなって感じました。

50代 会社員

私の子どもも学校にあまり行けない、行っても教室に行けない状況です。最初はなんで行けないのか悩みましたが、今は行けるときにに行けばいいと思っています。無理やりやらせるのではなく、見守ることも大事だと思いました。

40代 その他

子どもの障害についての知識に自信が無く、いつも不安になりながら接していましたが、自分の接し方が間違っていないことに対する再認識につながり、良かったです。

40代 会社員

子どもの障害ごとに実例があり、親や支援者としてどのような対応をすることがいいのか、本当に分かりやすかったです。障害という言葉に抵抗があったが、人の助けを上手く求められないだけと読み替えると、子どもや周りの方に話しがやすくなりました。また、まずは自己分析をして、どのような支援が必要かをきちんと見極めることが大切だ、ということがよくわかりました。

40代 その他

自分の子どもが発達障害や過敏性などの特性で当てはまる場所が多々あり、親としてどう対応、接していけばいいかのヒントになりました。これからも自分自身の特性も含めて、社会での多様性の受け入れを勉強したいと思っています。

60代 元教員

学校の教職員は、様々な研修を通じて特別な支援を要する児童生徒への対応については、ある程度対応ができていていると思います。一方、保護者や地域の方々等、周りの人々への理解が進んでいないのが現状だと思われます。このたびの長澤先生の講演の内容は、共生社会の実現に向け、今抱えている様々な教育問題のなかでも重要な課題の一つだと思いました。正に時宜にあった素晴らしい講演でした。特に、事例をもとにしたお話が大変わかりやすかったです。第2弾を期待したいと思っています。

新潟県立教育センターのホームページで閲覧できます ※4月1日からリニューアル予定

来所相談

電話相談

※来所相談は予約をしてください
相談時間 月～金曜日 9:00～17:00
対象 保護者、児童生徒、教職員
URL https://www.nipec.nein.ed.jp/top_files/r4soudan.pdf

いじめ、不登校など、教育上の相談

025-263-9029

特別な支援を必要とするお子さんの教育上の相談

025-263-9030

いじめ・不登校など悩みごと相談テレフォン (電話相談専用)

025-263-4737

(相談時間 9:10～16:00)

PTAは必要か

- PTAが無くなると先生の負担が増えるため必要である。
- PTA行事として環境整備活動やプール清掃を行っているため必要である。
- PTAで登下校の安全見守り活動を行っているため必要である。
- PTA主催のイベントや活動がなくなるため必要である。
- PTAが無くなるとボランティアでやることとなり結局何かしらの組織が必要である。
- 保護者同士の情報共有や交流のためには必要である。
- PTA活動がないと先生方との交流の場がなくなってしまいうため必要である。
- CS(コミュニティ・スクール)に移行しても良い。
- 必要な活動があまりないため、無くても良い。
- 中学校になると自分の子どもとの関わりも減り、PTAへの関心が薄いため、無くても良いのでは。
- 学校の児童数が減っているため、現実的に存続が難しい。

昨年11月26日(土)、上越市教育プラザにおいて「PTAは必要か」、「継続可能な単P組織にするためにはどうすればよいか」についてグループディスカッションを行いました。

では、PTA役員のみならず、PTA役員でないため、役員選出に苦勞している学校が多いという意見が数多くありました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで行っていたPTA活動が思うように行えなくなり、活動が量的・質的に減ることによってPTAに対する関心も薄まってきていることも追い打ちをかけているようにも思えます。

「PTAの組織に関するアンケート」から「見えてきた課題」

教育課題委員会報告
組織検討委員長 山本 良昭

「PTAがなくなると、PTA組織を維持していく上で困っていることは何か」、「などグループディスカッションを行い、意見交換を行うことになりました。

グループディスカッションにおける主な意見等については下記のとおりとなりました。

※PTA…「父母と教師の会。父母・教師の協力による教育の改善・向上、児童・生徒の成長・発達と福祉の増進を目的とする。」(広辞苑より)

継続可能なPTA組織にするためにはどうすればよいか？

- 役員の選考方法が難航することがPTA不要論に繋がっている。役員をスムーズに決めるために選考方法をルール化する。
- 役員の責任が負担に感じてしまうため、責任の分散化を図る。
- PTAの活動に関心を持ってもらうため、活動内容をもっと保護者に周知する。
- PTAという名称が堅苦しいため名称を変更する。
- 保護者への情報発信方法をデジタル化し、リアルタイムに情報を発信する。
- 中山間地の学校は児童数が極端に少ないため、近隣のPTAと合併できないか検討する。
- 地域で協力していただける人(保護者以外)から協力していただく。
- 予算の使い方を明確にして、組織の透明性を確保する。
- 活動の都度、ボランティアを募ることとして、PTA役員のスリム化を行う。(会長、副会長のみでも良いのでは)
- 活動内容を本当に必要な活動に絞る。
- 中学校は3年しかないので、入学時に3年分の役員を決めてしまう。



組織検討委員会

1	委員長	山本 良昭	7	委員	豊田 誠
2	副委員長	藤巻 優樹	8	委員	内山 綾香
3	委員	百都 順也	9	委員	中村 伸二
4	委員	町田 達也	10	委員	伊藤 昭夫
5	委員	久住 純也	11	委員	大川 正史
6	委員	佐藤 誠			

ディスカッションにおいて、「県P連、郡市P連の活動内容がまったくわからない。参加することの負担が大きい。」という声が聞かれました。これらの声を真摯に受け止め、県P連、郡市P連の今後の活動に対して、開かれた県P連、郡市P連をめざして、会員と一緒に歩みながら、一層の周知を図っていく必要があると考えます。

ディスカッションでは、やはりPTA組織は必要ではないかとの意見を多く聞くことができましたが、役員選出に苦勞していることが一番の課題のようです。一部の方だけに負担が集中しないように、不公平感が生じないようなルール作りをするのが良いという意見もありましたので、大変参考になりました。

PTAは保護者や先生方が子どもたちのために活動する組織です。すべては子どもたちのために活動していることを今一度思い出し、PTAの必要性を改めて考え、参加しやすいPTA組織を目指す必要があるのではないのでしょうか。



第54回 日本PTA関東ブロック研究大会

山梨大会

新潟県代表発表!

ちょこっとサポーターから比角スマイルプロジェクトへ ~地域連携への取組~
第4分科会(安全安心)発表 柏崎市立比角小学校PTA

1 はじめに

比角小学校は市内では一番の大規模校で、会員数が最も多い学校です。そのため、多くの会員にもっと関心を持ってもらいたいと考えました。また、この地区は地域の熱心な方々に見守られ、多くの地域ボランティアの協力を得て、学校の活動が行われており、保護者の立場で感謝の気持ちを伝えられないかと常々思っていました。

令和2年度を迎えるにあたって、ちょうど大規模改修を終えたばかりの快適な校舎を利用し、マルシェのようなイベントを行い、子ども・保護者はもちろん、地域や先生方を楽しんでもらえたらと考えました。新型コロナウイルス感染症のニュースが世間を賑わしていたものの、まだ楽観的な見方もしており、開催日も概ね決定し、保護者で出店できそうな方に話をもちかけていた矢先、突然の一斉休校、そして緊急事態宣言の発出となる状況となりました。

4月に入りようやく新学期がスタートし、三役会議である総務会会議を開催できましたが、そこではPTA総会を书面決議にすること、各行事の中止や延期、そしてマルシェの断念と、残念な決断ばかりとなりました。しかし、この先何もしない選択は考えられません。二つの思いが頭に浮かびました。

それは、先の見えない不安な状況の中、「子ども、保護者の心情に少しでも寄り添うこと」「学校と一緒に、危機的状況を乗り越える」ことでした。この思いを形にするために、今できることをとにかく発信してみることにしました。

2 PTA活動の概要

(1) 総務会通信の発行

これまで発行したことのない「総務会通信」を発行しました。「コロナに負けずに頑張ろう」「集まらないけど繋がろう」を合言葉に、声を出せる場が激減した児童・保護者共に、学校あてに手紙が書けるように便箋をつけ、校内にポストを設置し、双方向の情報交換を行いました。日記風のものや、悩み相談、学校やPTAへの要望等がありました。

(2) ちょこっとサポーターの募集

登下校の見守りや、授業の補助についてはこれまで通り地域ボランティアの協力をお願いするのに対し、日中は難しくても放課後や休日など、自分の都合のよい時間帯、曜日でボランティアをしていただける方を募集し学校から依頼されたことや、手が回っていないような部分で「ちょこっと」協力をするものです。

当時先生方が行っていた清掃と消毒作業の一部を請け負ったり、休日に近隣町内会とともに校舎周りの雑草の草刈りを行ったりと、本当に「ちょこっと」ですが、学校のお手伝いをいたしました。

(3) 各種行事を開催するための工夫

9月に入ると、学校行事を開催できる状況になり、可能な限り、保護者の受け入れをしながら開催できる工夫を一緒に考えさせてもらいました。

このように子どもたちの為に、学校とPTAである保護者が思いを共有し、知恵を出し合い、悩んだことがとても大きな財産となりました。新型コロナウイルス感染症が子どもたちの大切な時間や沢山あるはずであった思い出を奪ってしまったのは事実です。しかし、比角小学校においてこれほどPTAと学校が一緒になって協力しあったことはなかったのではないかと思います。



3 PTA活動から地域活動へ

PTA活動の経験により、子どもたちを囲んでいる、学校・地域・保護者の横のつながりがいかに大切かを再認識することとなりました。そして令和4年4月から、今後は地域の一員として子どもたちのためにできることを始めています。

それが「比角スマイルプロジェクト」です。この活動はコミュニティセンターを活用し、地域の中で子育て世代が安心して子育てができるよう「遊び、学び、食」の3本柱で活動しており、誰もが集える場所づくりを目指しています。

(1) 遊びの支援

コミュニティセンター講堂を利用し、子どもたちの遊びの環境提供を行っています。こちらから「今日は〇〇をしましょう」と言うことはなく、子どもたちが自由にやりたいことをやっています。スタッフは、一緒に遊んだり、見守ったりと支援活動を行っています。

(2) 学びの支援

元学校教員による学習支援を行っており、同時に社会勉強の機会ともなっています。宿題、試験前や各種検定試験前の勉強などの学習支援を行ったり、時には、お借りしている畑に芋の苗植えに行ったりと学校の勉強以外の社会勉強の機会を計画し実行しています。

11月には、防災の勉強でパッキングとロープワークも計画し、学校と地域のWin-Winな関係づくりを模索しています。

(3) 食の支援

有志スタッフで子ども食堂を行っています。現在、不登校の子どもや保護者の支援を行っている団体とも連携し、保護者の会を実施しています。これは、地域関係なく柏崎市内全体の問題として捉え活動を始めています。

また、ひとり親家庭支援として、週1・2回ですが、お惣菜の無料配布も行っています。



4 成果と課題

今まで当たり前でできていたことが、できなくなり、子どもを取り巻く環境も変わってしまいました。しかし、コロナ禍になって、色々なことを見直すきっかけになったと思います。比角地区は、もともと地域の方々が協力的で、学校側もそれを受け入れてくれます。目的達成に向けて「学校、家庭、地域」が、その意図を共有し、活動の内容や方法を工夫し、継続して連携していくことが肝要であると考えます。

「比角スマイルプロジェクト」が令和4年度から活動開始となりました。どの地域でも悩みの種と思われるが、少子高齢化や地域の担い手の減少による、ボランティアスタッフを継続的に確保できるかという課題があります。

しかし、だからこそ安心して生活や子育てができる場所づくりを、子どもたちが大人になって帰ってきたいと思える地域になるように、この活動を継続していけるように頑張っていきたいと考えています。



大村 智 氏の講演の様子



参加者集合写真

【地域連携】地域コミュニティにおけるPTA活動の在り方(～子どもたちの健やかな成長をめざした地域社会活動の推進役として～)に参加して 長岡市出雲崎町P連 高橋 秀一

講演や事例発表から得られた、地域連携やコミュニティ・スクールに通ずるPTA活動のポイントをお伝えします。

- ①目標や課題の共有…地域・学校・PTAが理念(ミッション、ビジョン)を共有し、分かりやすい言語化が必要。
- ②身につけさせたい子どもの力(資質)を明確化…親も子どもも成長できる関係がつかれる。

これらを踏まえ、地域・学校・PTAの対話の場ができることで、地域と学校行事の合理化やニーズに沿った新しい取組など、お互いの強みを活かせると気づきが得られました。



【家庭教育】子どもたちの未来のために(～世代を超えて心をひとつに…今こそ!音楽の持つその力に～)に参加して 魚沼市P連 坂牧明日香

「歌は世代を超えた共通言語～歌い継ぎたい想い～」のテーマでシンガーソングライターの神部 冬馬 氏による講話とステージショーが行われ、とても優しい声に癒やされました。

自分では考えられない歌詞や伝えたい言葉など、色々な「想い」が込められた言葉にメロディーが付けられて私たちの心に伝わりやすくなります。

教科書に載っている曲、カバーされて自分の子どもも知っている曲、世界共通の曲もあるので、私も歌い継いでいきます!



【組織運営】地域と共に歩むPTA 未来を見据えた組織運営の在り方に参加して 新発田市P連 三田村一宏

今大会では関東地区PTA関係者が集結し、皆さんがメモを取りながら熱心に研究発表や講演を聞いていました。それを裏付けるように会場の反応や拍手の大きさなど、会場の雰囲気は一体であったと感じました。さらに、PTAの存在意義は益々高まっているという共通の研究発表では、PTAが中心となった児童生徒と地域を取り巻いたイベントの開催など、地域全体で学校、子どもたちに視線を集め、子どもたちから目をそむけない活動を行っている内容に、深く感銘を受けました。



令和4年度 日本PTA「楽しい子育て全国キャンペーン」6年連続上位入賞

三行詩コンクール入賞おめでとう

応募総数

118,791作品

小学生の部 63,377作品
中学生の部 47,229作品
一般の部 8,185作品

〈上位入賞〉

- ・文部科学大臣賞
- ・厚生労働大臣賞
- ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞
- ・日本PTA全国協議会会長賞
- ・佳作 5作品

毎年、日本PTA全国協議会では、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化中、改めて家族の会話やコミュニケーションから生まれるきずな・家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった子どもたちの基本的な生活習慣づくりなど、家庭教育の大切さや命の大切さについて、家族で話し合い取り組むことを社会全体に呼び掛けていくため、「三行詩コンクール」を行っています。

新潟県では、小学生の部で平成29年度から3年連続、一般の部で令和2年度、中学生の部で令和3年度から2年連続と、上位4作品に選ばれ、6年連続上位入賞の快挙となりました。今年度の「『早寝早起き朝ごはん』全国協議会会長賞」に輝いた、川辺 丈太郎さんの作品は、「ファミリーカレンダー」となりました。

中学生の部 佳作

大会で走る僕に
必死に拍手してる母
声を出せない応援ルール
ちゃんと届いた がんばるよ

田上町立田上中学校 1年 小日向 優さん



中学生の部 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞

魚沼市立小出中学校 3年 川辺 丈太郎さん

令和4年度 新潟県三行詩コンクール 入賞者

「楽しい子育て全国キャンペーン」

～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

小学生

中学生

一般

県P連最優秀賞

長岡市立青葉台小学校
6年生 宮下 音奏
ゆったり
じっくり
しっかりと
しっかりと
語ろう！笑おう！楽しもう！
そんな時間
いっぱい、いっぱい作ろうね。

県P連最優秀賞

魚沼市立小出中学校
3年生 武藤 ゆづき
「うるさいな」
むかついた私の一言に
「ねえねえそれって反抗期？」
笑顔で聞く母メンタル最強。

県P連最優秀賞

田上町立羽生田小学校
中丸 瑠美
「いただきます」の
合図とともに
家族の会話が
おいしさのスパイスとなって
降りそそぐ
今日のごはんもおいしいね！

田上町立田上小学校
3年生 佐藤 礼奈
パパとママにもらったやさしさを
そうっと妹におすそわけ

魚沼市立小出中学校
3年生 川辺 丈太郎
一度だけ「おいしい」といった
ヨーグルト
もういいかげん飽きたけど
今でも毎朝出てきます。

魚沼市立小出中学校
2年生 松井 みなみ
この世で一番怖いのは私の母。
でも
一番ぬくもりをくれるのも私の母。

田上町立羽生田小学校
匿名希望
あいさつは 自分を知らせる
第一歩
大きく 明るく 元気よく

南魚沼市立後山小学校
平松 寛隆
年々成長していく娘と
交わす言葉の数は反比例
だけど
「ありがとう」言葉の重みは正比例

田上町立羽生田小学校
5年生 小日向 紗季
10才でもらった手紙
生まれた日から私の幸せ
願ってくれてありがとう
今度 かたをもませてね

田上町立羽生田小学校
5年生 時田 美南
弟がとまりに行った夜
ママとパパをひとりじめ
けれどやっぱりいいときみしいよ。
家族は4人で1つだね！

魚沼市立小出中学校
1年生 中川 麻衣子
すれ違い
気づいているけど、無視してる
早く終れよ、反抗期

田上町立田上中学校
2年生 小日向 優
大会で走る僕に
必死に拍手してる母
声を出せない応援ルール
ちゃんと届いた がんばるよ

長岡市立中之島中央小学校
中島 暢子
「大丈夫？」
寝込む母に ギャングエイジの
声が出た
やさしい心は あの頃のまま

南魚沼市立後山小学校
井口 歩美
「猫は宿題なくていいよな」
娘からの八つ当たりを
何も言わず受け止める猫
気づけば知らん顔して
娘のそばにいる
猫から学ぶ親の姿勢

田上町立田上小学校
4年生 江川 空来
おやつはいつもはぶんこ
いやな時もあるけど
妹のありがとう笑顔もはぶんこ

※以上の作品は、日本PTAへ推薦いたしました。多数ご応募いただき、ありがとうございました。(応募数：小学校53点 中学校249点 一般12点) ※敬称略



コロナ禍におけるPTA活動 その3



際限なく繰り返される新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、今年度もPTA活動が制約を受け、昨年度に引き続き試練の1年となりました。このような中、「学びを止めない」という強い信念のもと、PTAの力で学校、地域を巻き込んで、子どもたちだけでなく、会員にも勇気と活力、希望を与えてくれるような多くのPTA活動が、広く県内で展開されました。活動の形を変え、工夫することで、今まで以上の成果を挙げることでできた、特色ある活動を行った郡市PTA連合会(連絡協議会)の取組を紹介する、第3弾。今後の活動の参考に、一読をお願いいたします。

今こそ中学校での思い出作りを

糸魚川市PTA連絡協議会



コロナ禍にも負けず、積極的に活動している糸魚川中学校PTAの取組を紹介します。

現3年生は入学からコロナ禍で始まりました。1、2年生の時は、PTA行事も限られ、思い出作りができずに終わってしまいました。そこで、待ったなしの今こそと、教養委員会の企画で、2度講演会を行いました。

一つは、同校出身の元プロ野球選手「綱島龍生」様をお招きし、『夢』をテーマに講演と実技指導をしていただきました。二つ目は、上越市出身のバンド「My Hair is Bad」の椎木知仁様をお招きし、講演とライブをしていただきました。

それぞれの講演で、子どもたちは目を輝かせて鑑賞し、質疑応答では、子どもたちの直球の質問に戸惑う場面もありました。オンライン慣れしている中、プロの方と対面することで、より深い思い出を作ることができたと思います。



新しい繋がり方

村上市岩船郡PTA協議会



コロナ禍に加え、昨年8月の記録的な豪雨により、当地区は多くの建物や道路が被害に遭い、人と人の繋がりがますます難しくなりました。しかし、郡P役員一丸となって、オンラインに對面方式を加えたハイブリッド方式で、郡P研究大会を成功へ導き、来年の県P研究大会の開催に弾みをつけました。

村上小学校では、文化祭のPTAバザーで、執行情報は、「フードマルシェ」と題したテイクアウト限定の食品販売を行いました。「おやじの会」は、『むらじょう縁日』を企画し、少人数グループでの射的・輪投げ・体力テストなどのブースを運営し、150人以上の児童が楽しみました。また、「高学年部」は、『もったいない事業』を展開し、学用品フリマで体操着等を無駄なく再利用する取組を行いました。どれも、参加者全員が安心・安全に繋がることができ、有意義で楽しい活動になりました。

ブロック研修を全体へ広げる

長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会



当市P連は、7ブロックで構成されており、それぞれ特色のある研修を実施しています。コロナ禍の中で、今年度行われたブロック研修を三つ紹介します。

一、北部ブロック。「ダンス体験会」です。村山なな氏(ダンサー)を講師に迎え、会場で実際に体験するものと、YouTube配信を見ながら参加する方法で、ダンスの輪を広げました。

二、西部ブロック。「コミュニティ・スクール」について、講師に小見まいこ氏(みらいずWorks代表理事)を招き、学ぶ機会を設けました。その際に資料として使用した冊子を、他のブロック分も購入し、研修内容の共有を図りました。

三、三島ブロック。「子どもとの接し方」や「よりよい親子関係」を学ぶ研修で、遠藤麻理氏(ラジオパーソナリティー)の講演をZoomで他のブロックも参加できるように機会を広げました。

学校の状況に合わせてできることから

五泉市小中学校PTA連絡協議会



橋田小は、PTA行事として学校で「逃走中」をやりました！ハンターは保護者。子どもがはしゃぎすぎて怪我をしないようにするのが大変でした。

愛宕小は、運動会の後に引き渡し訓練があったのですが、その間にプールの草取りをして、保護者のボランティアもかなり集まって助かりました。

川東中は、体育祭時のグラウンドの設営と片付け。里芋収穫後の土落としや仕分けをやりました。

五泉北中は、3年ぶりにチャレンジウォークと職場体験。そして、今年初の試みで、ダンス講師を招いてのダンスレッスンです。

巢本小は、小さい学校の利点を生かして、できることは、思い出作りのためになるべく開催しました。運動会、150周年記念式典&作品展、同日の巢本地区芸能祭、マラソン記録会、ラポルテにて米と里芋の販売会(5年生が米、3年生が里芋)等です。

祝 令和4年度 年次表彰

とき：令和4年11月18日(金)
ところ：東京都千代田区
ホテルニューオータニ

毎年PTA活動で優れた業績を有する団体や個人が、新潟県教育委員会や新潟県小中学校PTA連合会から推薦され、表彰されています。

今年度は、次の団体・個人の皆様が表彰されました。おめでとうございます。

文部科学大臣表彰

団体

柏崎市立田尻小学校PTA
糸魚川市立糸魚川中学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

団体

糸魚川市立糸魚川東中学校PTA
小千谷市立片貝小学校PTA

個人

丸山 里子 (五泉市立五泉北中学校PTA)

山下 あい子

(元新潟県小中学校PTA連合会事務局長 (敬称略))



広報委員会 活動報告



広報委員長 渡辺 弘輔

広報委員会では今年度の活動方針に従って活動してきました。キーワードは「共有」です。PTAの全国大会や関東大会などに参加してきましたが、広報誌をはじめとした広報活動はPTA活動をする上で本当に重要だと思われました。例えばPTA不要論などがありますが、活動について「よく知らない」ことが根本にあるような気がします。学校、家庭、地域が一体となって教育に取り組みコミュニケーション・スクールを実践している学校では広報に力を入れていると伺いました。知らないことは「不審」になりますが、知ることで「信頼」そして「協力」に変わります。そして、各PTAや先生方も様々な活動を行っているように私たちPTAも様々な活動を行っています。その内容を皆さんと共有するべく、まずは手に取っていただけるよう「読みやすさ」を第一に広報誌113号、114号を発行しました。原稿執筆にご協力いただいた皆様、編集作業に共に携わってくれた仲間たち。本当にありがとうございました。最後に、委員会では活動の締めくくりとして広報誌コンクールを開催します。広報誌は保護者との大切なコミュニケーションツール。素晴らしい広報誌をみんなで「共有」しましょう。

第21回 新潟県小中学校PTA 広報誌コンクールのご案内

県P連では、PTA広報活動の活性化を目的に新潟県小中学校PTA広報誌コンクールを開催いたします。

ぜひ、ご応募ください。

●応募方法・応募締切

令和4年4月から令和5年3月までに発行された単位PTA広報誌の全ての号をセットにして2部、県P連事務局に送付してください。

応募締切 令和5年3月31日(金)必着

●審査方法・基準

一次審査・二次審査で、最優秀賞・企画賞・写真賞・レイアウト賞、WEB版特別賞・佳作の各賞を決定します。日本PTA広報誌コンクールの審査基準を参考に、PTA広報誌の目的・使命・記事・編集・レイアウト・見出し文などを総合的に審査します。

今年度から新たに「WEB版」を募集します。募集要件がありますので、詳しくは、2月上旬に各都市P連事務局を通じて各単位PTAに配信された実施要項をご覧ください。

新潟県小中学校PTA連合会 研修会(会場：上越市教育プラザ)

コミュニティ・スクール(CS)におけるPTAのかかわり

演題：自分たちの「協働」をデザインする ～春日小学校のCS～
講師：上越市立春日小学校 校長 星野 浩一様 教頭 富樫 徹様

1 はじめに

当校の学校運営協議会(以下CS)と地域学校支援本部は、平成24年度に設置され、今年度で11年目となっている。平成27年度には、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受けている。

2 CSとの連携

(1) CSの役割

- ①学校運営の基本方針の承認を行う。
- ②学校運営全般に対する意見を述べる。
- ③学校運営状況に対する評価を行う。
- ④CSの活動状況を地域住民に情報提供する。

(2) CS委員

当校にとってCSの存在は学校運営に欠かせないものになっている。そのため、委員の確保は大変重要なものである。当校を取り巻く地域には、多くの地域人財(注)が存在する。その中から、校長が中心となって、「この人をお願いしたい」という考えのもとに人選を行っている。ここには、PTA役員も含まれている。

当校CS委員の多くは、学校支援本部コーディネータ(以下Co)を兼任している。主な役割としては、児童の学習活動への協力や教育の環境整備等が挙げられる。

(3) CSの会合について

校内で行うものは、年3回行っている。以下は、開催時期とその主な内容である。

- ①第1回(5月)
 - ・組織と規約の確認
 - ・教育活動の承認
 - ・今年度の支援要望の確認
- ②第2回(9月)
 - ・1学期学校評価の確認
 - ・2学期以降の支援要望の確認
- ③第3回(2月)
 - ・2学期学校評価の確認
 - ・CSの振り返りと評価
 - ・次年度のグランドデザインの検討、承認

※この他に、春日中学校区三校合同CSを12月6日に開催した。主な内容は、各校のCSの取組紹介、ICT活用であった。

3 カリキュラム編成に係るCSの役割

カリキュラム編成については、前年度中に学年部の教員がおよその計画を立てている。また、新年度当初の職員会議でグランドデザインの確認を行った後、新たな学年部の教員で、今年度のカリキュラムの検討を行う。

その後、4月中旬には、CS委員、Co、上越市の文化行政課職員、そして、学校職員が集まり、第1回カリキュラム検討会を実施している。ここでは、参加者からの意見をカリキュラム編成に取り入れるとともに、協力して下さる人財を紹介していただいたり、参加者に直接協力を依頼したりしている。この会で、今年度の生活科や総合的な学習の時間の内容等を中心に検討を行った後、本格的な学習活動がスタートしている。

8月には、第1回とほぼ同じメンバーが集まり、第2回カリキュラム検討会を実施し、1学期の学習活動を振り返るとともに、2学期以降のカリキュラムの再検討を行っている。



2月には、第3回カリキュラム検討会を実施している。ここでは、学年部の教員が年間を振り返るとともに、次年度のおよその計画を立てている。年3回のうち2回のカリキュラム検討会にCS委員が参加して下さることで、年間の教育活動の明確化が図れている。また、協働体制が得られることで、学年の活動を推進していく原動力を得ていると感じている。CS委員は、転入したばかりの教員にとって、特に心強い存在であると考えている。

4 学校支援本部との連携

学校支援本部とは、学校側のニーズに応じ、地域人財等の情報提供や実際の支援を行って下さる地域の方々である。町内会長会、後援会、PTA等が属している。

およそ隔週毎にCoが来校し、教員からの支援要望や日程等を確認したり、支援に関する細かな打合せを行ったりしている。

学校支援本部との連携の例として、4年生の総合的な学習の時間における学習活動について紹介させていただく。

4年生では、地域の宝である春日山や上杉謙信公を含む地域の歴史についての学習を行っている。地域の歴史に関しては、学校が地域の歴史に詳しいCoに講師の依頼をし、歴史に関する学習会を行った。また、地域の祭りである謙信公祭に詳しいCoに講師をしていただき、謙信公祭についての学習会を行ったり、前夜祭に向けて提灯作りを行ったりした。

その他、春日山の保全活動として、春日山城跡保存整備促進協議会の方々とともに春日山の松葉かきを行った。春日山城跡保存整備促進協議会は、Coや地域の町内会長会も関わっている会である。また、上越市文化行政課の方々とともに義の土一袋運動を行った。文化行政課の方からは、カリキュラム検討会にも出席していただいている。



これらの学習会や活動を通じ、子どもたちは、地域をよりよく知ることができたとともに、地域の伝統を守り、受け継いでいきたいという気持ちを高めてきた。

ここで紹介したものは、4年生の活動に限ったものである。他学年の学習活動や学校行事も含めると、学校支援本部の方々との協力を得ているものは年間数十回にもなる。Coが直接的に協力して下さるものもあるが、多くは、Coが学校と地域の人財とを結びつけて下さっている。

PTAも学校支援本部に属しており、主に学校の環境整備作業や行事の運営等で支援をして下さっている。当校は、多くの人財から協力を得ることで、学校職員だけでは成り立たない教育活動を進めることができている。今後も、「協働」をデザインできる背景にある地域人財、そして、学校と地域人財をつないで下さるCoに感謝しながら、子どもたちにとってよりよい教育活動を展開していく。

(注)人材ではなく、敢えて「人財」を使用しています。



広報委員会

1 委員長 渡辺 弘輔	5 委員 橋立 茂樹	9 委員 畑 泰弘
2 副委員長 西脇 直美	6 委員 齋藤 和徳	10 委員 佐藤千恵子
3 委員 廣井 信彦	7 委員 石附 大昌	11 委員 佐藤 史淑
4 委員 宮下あさみ	8 委員 大羽賀拓実	

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期されていた県P研究大会加茂・田上大会が開催されました。動画配信で後日視聴するなどの取組により、今までは違うやり方で参加できるようになりました。今年度は、新型コロナウイルスの他に豪雨や寒波などの自然災害も続発し、子どもたちの学校生活に大きな影響を与えました。このような時こそ、PTA活動を通じて学校・地域・家庭・親同士の繋がりを深めていければと思います。広報誌の発行にあたり、協力していただきました皆様、ありがとうございました。(広報委員 佐藤千恵子)

『新潟県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例』の施行により、
令和4年10月1日から新潟県では

自転車損害賠償保険等への加入が義務化されました!

『新潟県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例』に関する
詳しい情報は、新潟県のホームページにてご確認ください。

新潟県 自転車条例

検索

「小・中学生総合補償制度」は、新潟県の自転車条例に対応しています

新潟県小中学校 PTA 連合会・新潟市小中学校 PTA 連合会 会員の皆様へ 【令和5年度】

小・中学生総合補償制度ご加入のおすすめ

(団体総合生活保険)

新規加入
受付中!!

3月17日(金) (第一次締切) までに申込 → 4月1日(土)から補償
4月21日(金) (第二次締切) までに申込 → 5月1日(月)から補償

特長
1

お子様やご家族が加害者に!?
示談代行付き(国内のみ)
個人賠償責任補償で安心!

学校から貸与されたタブレット端末を壊した等の賠償事故も時価額を限度として補償



家族やペットが起こした賠償事故も補償

特長
2

お子様がケガ
学校内・放課後・通学途中・
部活動中・プライベートを問わず
24時間補償で安心!



©東京海上日動

新型コロナウイルス感染症も特定感染症危険補償特約で対象(後遺障害・入院・通院)

2022年12月現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項第3号に規定されていますので、補償対象となります。

細菌性食中毒、
熱中症、
特定感染症も補償!



特長
3

幅広い補償



病気で入院した場合の医療補償
(P5・M5プラン)



扶養者に
万が一のことが
あった場合の
育英費用補償
(P5・M5・Hプラン)

プランの詳細はパンフレットをご確認ください。

特長
4

団体割引等の適用

1万円以上の加入のため
約51%割安

年間掛金3,000円~(月換算250円~)加入できます

簡単! ご加入手続きは記入・投函するだけ!

1月以降に学校から配布された黄色の封筒をご確認ください。
加入依頼書を記入しご返送ください。(切手不要)
4月22日以降申込の場合の保険料はお問い合わせ先にご連絡ください。

● 制度に関するお問い合わせ先

一般社団法人 新潟県PTA安全互助会事務局
〒950-0965 新潟市中央区新光町7-2
新潟県商工会館5F
TEL 025-280-0456
(受付時間/月曜~金曜 9:00~17:00)

【幹事代理店】 有限会社 新潟コーリン
〒950-0965 新潟市中央区新光町7-2
新潟県商工会館5F
TEL 025-280-0361
(受付時間/月曜~金曜 9:00~17:00)

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

【幹事保険会社】
東京海上日動火災保険株式会社
【非幹事保険会社】
共栄火災海上保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社
AIG損害保険株式会社

